

胃 集 団 検 診 （ 地 域 ）

動 向

平成15年度住民対象の胃がん検診の受診者数は、16,880名で前年比839名の増加となった。増加したおおきな要因はなく、各市町村ともほぼ前年と同じであった。

県の集計によれば、県域の胃検診の対象人口は約90万人であり現行のカバー率は約7%前後であることを考えると一層の受診率向上が必要である。

受診者数を増加させるためには初診者の掘り起こしが必要であるが、近年受診者の初診率は低迷しており、今後各市町村とも初診者増加対策を練る必要があると思われる。

又、現在がん検診は市町村の単独事業として実施されているが、胃がん検診の有効性は厚生省の研究班により証明されており、住民サービスの低下の無いよう今後益々の受診率向上が望まれる。

一方、協会では神奈川県消化器集団検診機関一次検診連絡協議会の事務局を前年度に引き続き担当し、会の運営に協力している。

方 法

地域検診における受診者は年々高齢化と身体の御不自由な方の受診も年々多くなっている、また、便秘の面からも高濃度造影剤を控えているが、最近の造影剤は便秘に対してかなり配慮されてきている、今後の方向としてより情報量の多い高濃度造影剤の使用も検討していきたい。いずれにしても造影剤の飲用は便秘をするので水分の摂取は怠ってはならない。撮影方法は前壁レリーフ像を含めた7枚撮影報で実施され、写真は100mmサイズのフィルムに記録され、異常や所見があれば随時追加撮影が可能で、より情報量の多い写真を提供している。要精密検査

者の精密検査は地元医師会で実施される、その結果は、協会、医師会、行政も参加して一次スクリーニングの写真や精密検査時写真及び内視鏡写真が持ち寄られカンファレンスが行われている。

結 果

地域検診では表に示すように19市町村で実施された。要精密検査の必要な人は男女合わせて2740人16.2%。精密検査受診者は1840人67.2%の受診率である。受診率100%は男女とも箱根町と二宮町で、湯河原町の女性、清川村の女性が100%の受診率であった。地域から発見された胃癌は男性18人、女性7人合わせて25人が発見されている。発見率は要精密検査受診者に対して1.36%を示している。また、胃ポリープ及びポリポージスは360人発見率19.57%と高率である。胃潰瘍及びその瘢痕は148人8.04%を示す。十二指腸潰瘍及びその瘢痕は100人で5.43%であった。ここでも未受診者は多く900人が精密検査を棄権している。今後未受診対策を十分検討しなければ胃集団検診の効果は発揮されないであろう。

関係の集計表は69頁に掲載